

2017 年春季研究発表大会のお知らせ

大会実行委員長 東京理科大学 経営学部 経営学科 山根 里香

2017 年春季研究発表大会を開催致します。このたびは、学会にとりまして挑戦的なテーマとして医療と P2M を掲げております。研究発表、基調講演とパネルディスカッションを通じて、プロジェクト・プログラム・マネジメントに携わる皆様の英知を結集する機会となりますよう、大会実行委員会一同準備を進めております。ご関心をお持ちの方にもぜひお声がけいただき、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

1. **開催日時**：2017 年 5 月 13 日（土）
9：30～16：45（予定）

2. **会場**：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6

3. 大会テーマ

医療とプロジェクト・プログラム・マネジメント

～チーム医療による医療サービスの向上とプロジェクト・プログラム・マネジメントの役割期待～

4. 大会趣旨

医療サービスの受け手である患者の治療や医療に対するニーズの多様化に対応するために、医療現場ではチーム医療が重視されるようになってきています。医療サービスは、医師・看護師や、薬剤師、理学療法士、作業療法士などのパラメディカルにより提供されるものです。多様

な専門職能を有するスタッフにより真のチーム医療を実現するためには、プロジェクト・プログラム・マネジメントの機能が必要となります。

日本は世界に類を見ないスピードで高齢化社会が進行しています。2015 年度の概算医療費は 41.5 兆円、前年度と比べて約 1.5 兆円の増加となっており、過去 13 年連続して増加を続けています。医療費増加の要因の中でも、高齢化に加えて新薬の登場など調剤に起因する伸び率が最も高いとされています。医薬品の適正使用により、医療サービスの受け手である患者の安全性確保はもとより、不要な医療費の削減を目指すことは日本の医療における喫緊の課題といえるでしょう。

チーム医療が以前より展開されてきた海外では、医師が薬物治療に関し、有効性・安全性・費用対効果を考慮した適切な臨床上の判断を行えるように、薬剤師が根拠に基づく医薬品情報を提供することで薬物治療の面から医療を支援するアカデミック・ディテリング (Academic Detailing) が展開されています。日本においても、医薬品情報のシステム構築の必要性と合わせて、アカデミック・ディテリングの重要性が認識されつつありますが未だ発展途上にあります。真のチーム医療を実現するためには、パラメディカルの専門職能がチーム医療の中で機能するよう、プロジェクト・プログラム・マネジメントが展開される必要があります。

高齢化社会において、費用対効果を考慮した適切な医療サービスが提供される体制を実現するために求められているものは何か。本大会では、薬学、医学、プロジェクト・プログラム・マネジメントの3つの側面から医療サービスにおけるプロジェクト・プログラム・マネジメントの貢献可能性について議論を重ね、日本が抱える医療の問題に一石を投じる契機となることを願っております。

5. 基調講演

スピーカー：小茂田昌代（東京理科大学薬学部薬学科）

講演タイトル：医師の処方行動を変える
アカデミック・ディテリングとは

講演内容：日本において、医師の処方に最も影響を与えているのは製薬企業のMRである。多くのMRを拡売に投入するほど、薬の売り上げが増える日本の現状がある。一方、海外では製薬企業のMRからの情報は宣伝、薬剤師からの公正中立な情報提供、すなわちアカデミック・ディテリングこそが医薬品情報活動と位置付けられている。日本においてもアカデミック・ディテリングの普及が望まれる。

6. 主催：(社) 国際P2M学会

7. 研究発表要旨締切：

2017年3月13日(月)

研究論文締切：

2017年4月17日(月)

※ 国際P2M学会ホームページ「お知らせ」にて、春季大会に関する情報を順次公開していきます。

http://www.iap2m.org/cgi-bin/info/info_top.cgi